

## 奈文研での日々

1987年6月、奈良文化財研究所に入所。発掘調査は先輩諸氏の指導のもと、どうにかついていく。測量だけは細心の注意。平城宮跡の整備では、東院庭園の整備が思い出深いとともに、携わったサイン計画の説明板や路面地図が今も機能しているのが嬉しい。

98～2001年は飛鳥藤原宮跡発掘調査部。その頃、明日香村が酒船石遺跡で亀形石槽等を、橿原考古学研究所が飛鳥京跡苑池を発掘。それらを間近で見られたのは、庭園史研究者として幸運だった。

01年に奈文研独法化にともない新設の文化遺産部遺跡研究室へ。全国の遺跡整備と庭園史の研究。5か月間だけ埋文センターで室長を務めた後、04年3月に文化庁に異動。文化庁での仕事は大変だったが、貴重な経験をさせてもらったことに感謝。

09年に奈文研に戻り、文化遺産部長。管理的な仕事とともに、専門分野の庭園史・遺跡整備の研究。13・14年は、副所長との兼務で都城発掘調査部長(平城)。あらためて現場の楽しさ・厳しさ、若い研究員の意欲を実感。2015年は副所長専任。

振り返ると、いまの私があるのは本当に奈文研のおかげと実感します。深く感謝するとともに、我が国の総合的な文化財研究の中核をなす研究所として、個々の研究員・職員の自覚のもと、奈文研が益々発展していくことを心から期待しています。  
(副所長 小野 健吉)



今西課長・小野副所長・難波センター長(左から)